

1 取組名称

大学院教育向上のための都市環境学域横断講義の設立

2 取組組織等

都市環境科学研究科 全学域

3 取組実施代表者名

都市環境科学研究科・教授・金村聖志

4 取組期間

2年間（平成25年度～平成26年度）

5 取組の概要

首都大学東京の都市環境科学研究科は目的志向の大学院として新大学に創設されたもので、大都市東京の環境に関する多様な側面を研究する研究科である。開学後6年間の第1期中期計画を終了し、第2期中期計画に入った。第2期中期計画においては、大学の国際化、女性の参画をはじめとして、より高度な研究が望まれている。

この課題を解決するためには、研究分野を横断する講義や学生指導が必要である。今回の教育プログラムは、このような領域横断的あるいは理系と文系の融合を目指した新しい都市環境に関する学位を授与することを目指すものである。特に、大都市の政策に対して指導的な意見を述べることができるエキスパートや大都市の産業を活性化できるような人材を育成し、都市環境マイスター（博士前期課程修了者）の学位を授与する。また、国際化に対応できる人材育成を目指すため、英語による講義を積極的に取り入れ、国際化による人材育成の重要性を明示的に示してゆく。

6 事後評価での総合評定

2. 9 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った4段階評価（4～1、4が最高点）の平均点

7 事後評価に関する教育改革推進事業提案審査会での主な意見

- ・学域横断授業プログラムを設定し、初年度の内容を、実情を勘案して次年度に反映し、実施した点は評価出来る。外国人教員、女性教員を講師に迎えるなど、ダイバーシティを意識した講義内容とした点も評価出来る。
- ・「都市の課題」を軸に多様な分野が集まった研究科にふさわしい、総合的講義科目の設定であり、学生への教育的効果も期待できる。
- ・今後、学域横断型授業が学生にどのように評価され、また、学域全体の研究・教育をどのように下支えしているかを客観的に評価することが重要である。また、学域内に留まらず、周辺分野との積極的交流をおこない、魅力ある学域的横断授業が実施出来るよう、努力されたい。